

追悼文

「一生勉強、一生青春」との言葉は結城さんに最も相応しい言葉であると考えてる。

私が科目履修生だった頃、知的財産権法という新しい分野に入ることに對して大きな不安を抱えた。ちょうどその頃、懇親会が行われて、結城さんと様々な話をした。結城さんの学習経歴を聞かせてもらい、私も自信を持つようになった。世間から見れば、84歳は高齢に思われるのだろうが、若者に負けない精神を持ち、かつ研究に多大な熱情を注いだ結城さんはいかにも若く見え、敬服のほかない。

そして、私のような外国留學生の面倒を見て、論文の指導にとどまらず、日本語の指導までもしてくださった結城さんは親切な先輩でありながら、先生のような尊敬する存在であった。私たちのために、わざわざ授業の前の一時間に来ていたり、授業の後に残っていたりすることもある。皆の論文を読んで、手元に持っている有用な資料や本をくださって、「分からないことがあったらいつでもメールで」、と行ってくださった結城さんの姿は忘れられない。

聞きたいことがあり、私は6月18日に結城さんにメールを送ったが、そのお返事は、結城さんからではなく、息子さんからだった。結城さんが亡くなったことを悲しく思い、もう一度結城さんに感謝の気持ちを伝えることができたという悔しさもあった。

この文をもって、もう一度感謝の気持ちを伝えさせていただく

結城さん、本当にありがとうございました。

修士2年 黄 穎茵